

# 大田地域振興計画

大田ふるさとづくり協議会

# 目 次

第1章 計画策定にあたって.....	1
1. 背景.....	1
2. 目的.....	1
3. 構成と機関.....	1
第2章 大田地域の概要.....	2
1. 位置と地勢.....	2
2. 沿革.....	2
3. 人口と産業.....	3
3-1 人口.....	3
3-2 産業.....	3
第3章 地域の課題.....	5
第4章 大田地域の将来像.....	7
1. 将来像（計画の基本理念）.....	7
2. 将来人口.....	7
3. 計画の基本目標.....	8
第5章 基本計画.....	9
1. 安心・安全な暮らしを支える村づくり.....	9
1-1 健康づくりの充実.....	9
1-2 保健・医療体制の充実.....	11
1-3 消防・防災対策の充実.....	11
1-4 交通安全対策の推進.....	12
1-5 防犯体制の確立.....	13
2. 感性豊かで活力を生む村づくり.....	14
2-1 定住促進策の充実.....	14
2-2 婚活事業の推進.....	15
2-3 集客・観光の振興.....	15
2-4 雇用対策の充実.....	16
3. 豊かな自然と文化を大切にする村づくり.....	17
3-1 横岳蝶パーク構想.....	17
3-2 歴史的文化遺産の保存と活用.....	17
4. ひとが育ち、輝く村づくり.....	19
4-1 子育て支援の充実.....	19
4-2 幼児・学校教育の充実.....	19
4-3 社会教育の充実と生涯学習の村づくり.....	20
5. 利便性の高い村づくり.....	21
6. 若者の活躍できる村づくり.....	22
7. 地域情報の発信.....	23



# 第1章 計画策定にあたって

## 1. 背景

過疎高齢化が進む故郷おおたの将来を見据えた活力ある地域づくりをめざして、地域活力の維持、継続のために、地域住民の「この地域に住み続ける」という気持ちを醸成し、住民自ら課題解決していくという新たな当たり前を浸透させ、自治の再生と協働のパートナーとしての質を高める必要があります。また、次世代に向けて維持、継続していくための人材育成プランも必要となります。

そこで、大田地域の住民自治組織である「大田ふるさとづくり協議会」が主体となり、大田地域づくり計画を策定することとしました。

## 2. 目的

本計画は、活力ある大田地域を維持していくために、今後、地域住民一人一人が、地域の現状と課題を認識し、どのように行動したら良いかを示すものです。この計画に基づき、地域住民協働のもと、課題解決をしながら活力ある地域づくりを行うことを目的としています。

## 3. 構成と機関

地域計画策定にあたっては、大田地域の住民自治協議会である「大田ふるさとづくり協議会」の理事を中心とし、課題の抽出から基本目標、基本計画の内容検討を行い、本計画書の作成を行いました。

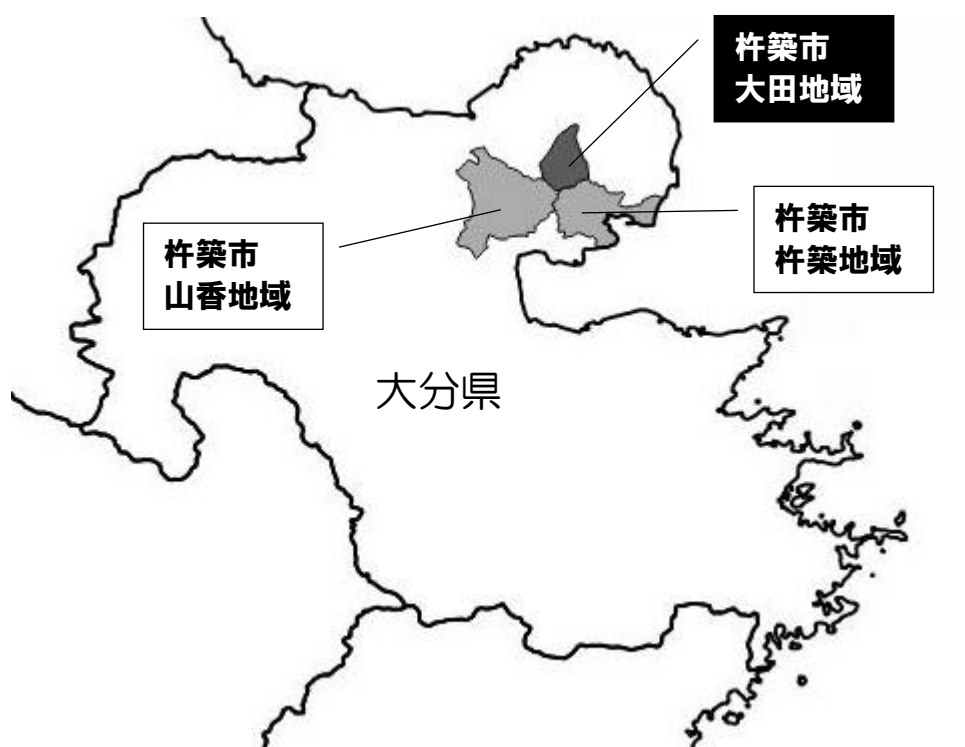
## 第2章 大田地域の概要

### 1. 位置と地勢

大田地域は、大分県の北部、杵築市の北側、国東半島の中央に位置します。東部を国東市、西北部を豊後高田市と接しています。

東西 7km、南北 10km、総面積が 46.07km<sup>2</sup>で、そのうち 75%を山林が占めています。両子山を中心に 200m 級のなだらかな山々に囲まれ、年間平均降水量 1,300mm で、降雪もほとんどない瀬戸内型の温暖な気候です。

大田地域の中央部には標高 390mの横岳が分水嶺となり、田原地域と朝田地域に二分しています。それぞれ、西に桂川、東に安岐川の上流部が流れています。



### 2. 沿革

1889年 小野村・永松村・沓掛村・石丸村を合併し田原村、俣水村・白木原村・波多方村を合併し朝田村となる。

1954年10月1日 朝田村、田原村が合併し、大田村が発足。

2005年10月1日 杵築市、山香町と合併し、杵築市大田となる。

### 3. 人口と産業

#### 3-1 人口

大田地域の人口は、平成 27 年 3 月末現在 1,435 人で、そのおよそ半数の 723 人が 65 歳以上の高齢者です。65 歳以上の高齢者の割合は、約 40 年前の昭和 50 年の 17.1%から徐々に増加し、平成 17 年に 47.6%に達してからは概ね 50%程度となっています。

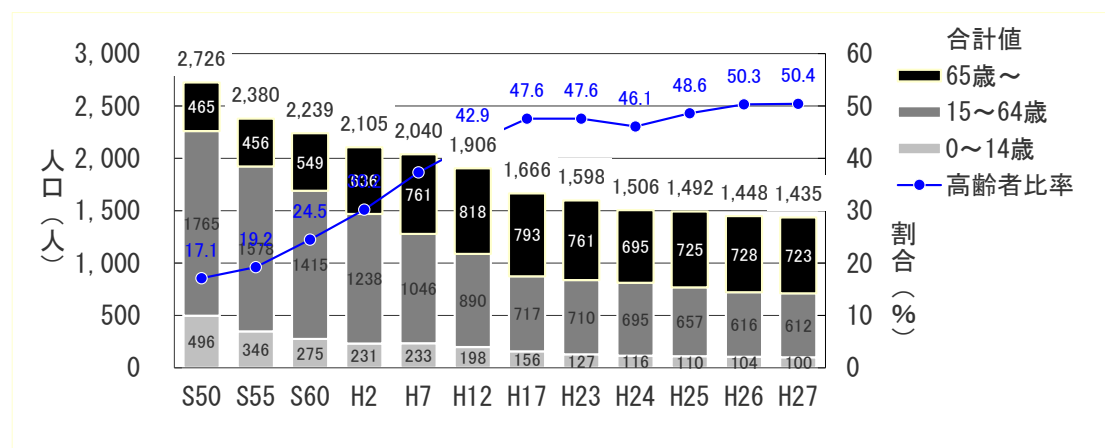


図 大田地域の人口推移

※S50～H17 は国勢調査数値、H23～H26 は住民基本台帳数値

#### 3-2 産業

##### <農林畜産業>

- ・稲作：大田地域の主要産業のひとつ。
- ・麦、大豆
- ・野菜：地形的な理由から畑地は少ない。ナバナ、ハクサイ、ナス、ネギ、キャベツ、イチゴ、春の七草等。
- ・果樹：クリ、スモモ、ブドウ、カボス
- ・花キ：ホオズキ
- ・シイタケ：大半は原木栽培による乾シイタケを出荷。一部で菌床による生シイタケ生産。
- ・農産加工品：乾し野菜、なすジャム、蒸しパン、かきもち等。
- ・林業：専門の林業者は減少。
- ・畜産業：肉用牛（豊後牛）の産地

### **<商工業>**

- ・地域内には大手スーパーやコンビニエンスストアはなく、個人営業の食料品、日用雑貨の小売店が数店舗営業されている。
- ・企業は、ロボット事業所のファナックロボット小屋、旅行業社 THE JAPAN TRAVEL COMPANY の 2 社が操業。

### **<その他飲食・宿泊施設等>**

- ・大田地域内には旅館・ホテルはなく、横岳自然公園内にある市営施設の横岳荘、ログハウス、キャンプ場で宿泊可能。
- ・飲食店は 2 軒、うち 1 軒は週末のみの営業（事前予約については対応）。

### 第3章 地域の課題

大田地域で現在課題となっていること、将来どうなっていって欲しいか、について、大田ふるさとづくり協議会 理事会において意見交換会を行いました。大田地域の住民を代表し、数々の意見が出された結果、次ページのような課題等にまとめられました。

これらの課題を基に、大田地域の将来像、及び今後の基本計画を第4章以降に策定しました。



## 大田総活躍 まちづくり

### 【移住・定住】

- ・空き家増加、景観の荒廃
- ・他地域の人が増えるようにしたい
- ・のんびりした環境維持
- ・空気、星がきれいのでゆっくり寝れる
- インフラ整備され災害の少ない大田をアピール
- 他地域の人に畑を貸し出し、種まきや収穫祭で交流
- 他地域の人とスポーツイベント実施
- I・Uターンの支援交流事業の推進
- 大田のホームページでの特産品販売
- 近くに働きに行けるよう市営住宅増設

### 【雇用】

- ・農業で生活できるようにしてあげる
- ・大田に会社ができたら若い人が働ける
- ・豊後高田の工業団地のように雇用の場が必要
- 通勤1時間以内の通勤ゾーンの設置
- 企業の誘致

### 【買い物】

- ・子育て世代がよく買うものを販売（パン・卵・牛乳等）して欲しい
- ・車の運転ができない人の買い物が困難
- 移動販売車の誘致
- 地区住民が株主となって商店をつくる
- 食品をまとめ買いしてシェアできるシステム構築
- 注文品が届く生協ステーションのような場所、システムをつくる
- コンビニ誘致

### 【地域コミュニティ】

- ・空気、星がきれいのでゆっくり寝れる
- ・各集落に動ける者（何か新しいことができる者）がいて欲しい
- ・他県から来た人の意見を参考
- 地縁の復活
- 地元の若者の地域を守る意識改革
- 地域について勉強し将来のリーダーを育成
- 近所同士の見守り隊をつくる
- 近隣（地域）ネットワークの構築
- 地域交流ふれあいの場をつくる

- ・：課題、要望
- ：解決策

### 【高齢者】

- ・お年寄りから希望を聞いてほしい
- ・高齢者は話をしたい
- ・高齢者は情報不足になりやすく閉じこもりがちになる
- ・地区の集会等に来ない人を呼べる雰囲気づくり
- ・高齢者が体と心を使って楽しめる場所づくり
- 独居老人といっしょに食事を作って食べる
- 高齢者といっしょに昔の遊びをする
- いきいきサロン事業の拡充・推進・娯楽施設、健康推進施設の設置
- 空き校舎を利用した夜間の「託老所」開設

### 【移動手段】

- ・移動手段のない高齢者がイベントに来れない
- ・運転免許証返還後の生活環境が不安
- 各行事での市営バスの利用範囲拡大と緩和

### 【仕事】

- お年寄りの得意なことを登録しておいて注文できるしくみづくり
- 動かぬ農業の研究
- 高齢者の収入源として学校給食での地場産野菜の利用
- 高齢者の仕事（野菜の加工、手芸品づくり、企業・役所からの委託等）を送迎・食事つきでできる場所

### 【子ども】

- ・小学生は地域の人とふれあえたが中学生以降機会が減ってしまう
- 子供たちへの支援・見回り・イベント

## 第4章 大田地域の将来像

### 1. 将来像（計画の基本理念）

#### 「やさしい笑顔の集う村」<sup>さと</sup>

子供からお年寄りまで、楽しく希望をもって笑顔で暮らしていける地域にします。

### 2. 将来人口

大田地域の人口について、将来予測を図に示しました。人口は、平成17年から平成27年の人口動態が継続した場合の人口予測で、このまま推移すると30年後には人口は約500人にまで減少、高齢化率は60%まで上昇し、人口減少・高齢化は急速に進行していきます。

一方で、移住者が毎年9組転入し、出生率が0.91%から2.07%に向上し、10代後半の若者の流出率が36%から30%に減少した場合は、30年後も現行の人口をほぼ維持できると予測されています。

したがって、大田地域を将来に亘って維持・振興していくためには、移住者や子供を増やし、若者が生活できる場所にしていくことが必要といえます。

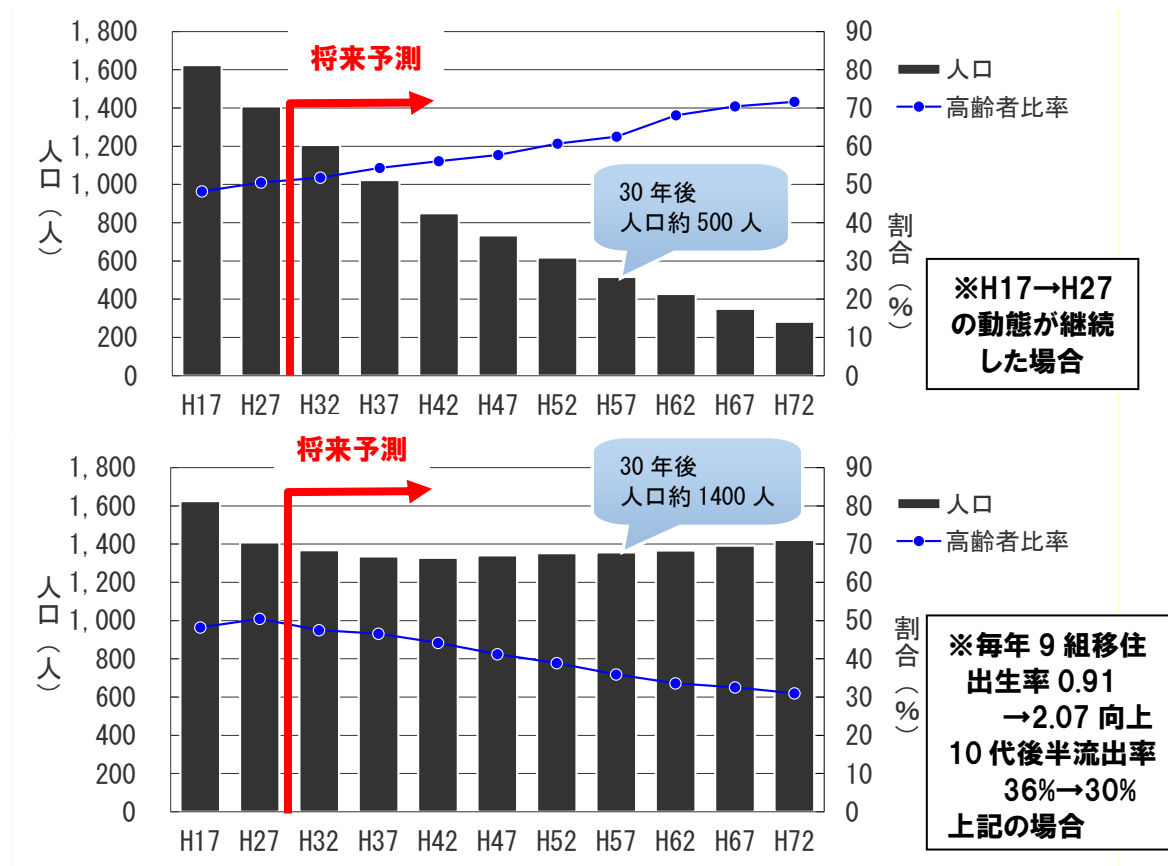


図 大田地域の将来人口推移予測

※国土政策フォーラム in 杵築 (2016) 藤山 浩 氏 基調講演資料のデータを基に作成

### 3. 計画の基本目標

## 「大田総活躍<sup>さと</sup>の村づくり」

子供からお年寄りまで、各世代がいきいきと活躍できる地域を目指します。

## 第5章 基本計画

### 1. 安心・安全な暮らしを支える村づくり

#### 1-1 健康づくりの充実

#### ➤ 地区サロンにおける健康づくりプログラムの充実

**目標** 地区サロンの開催  
平成30年3月31日 14地区 月2回以上

地区サロンの開催は、心と体のリフレッシュ、生きがい活動、地域ネットワークの強化等の様々なメリットがあります。特に大田地域では健康体操を中心とした身体機能の保持に着目した活動を行っています。また、サロンの開催によって、地域住民の交流機会が増加し、さらに、サロンへの参加が生きがいへとつながっていきます。これらの活動に民生児童委員等が携わることにより、地域の見守りネットワークを築くこともできます。

現在、大田地域では、14行政区のうち13行政区に地区サロンが設置され、ほとんどの地区で週に1回～2ヶ月に1回開催されています（次ページ表）。活動内容は、身体機能の保持・増進に向けた健康体操が主体で、運動終了後には懇話会としてコミュニケーション活動が行われています。身体機能の保持・増進を図るには継続した運動が必要なため、月に2回以上の開催が望ましいといえます。現在、月2回以上開催している行政区は9地区で、大半の行政区では達成されているものの、今後は全行政区において健康体操を月に2回以上開催します。開催日が増えることにより、身体機能の保持・増進のみならず、コミュニケーションの増加によって住民の地域への関心を深め、近隣で助け合いを育む地域づくりを目指します。

表 大田地域における地区サロン開催状況

地区名	状況	内容	参加人数	年行事
小野	2回／月 第2・4水曜	健康・ラジオ体操 (1.5時間)	15名程度	花見(年1回)
永松	1回／2ヶ月	健康体操、血圧測定 (4時間)	10名程度	老人会(1回／2ヶ月)
岸奈				
上沓掛	1回／月 最終金曜	健康体操、歌 (2時間)	20名程度	
下沓掛	2回／月 第2・4水曜	健康体操、懇話会 (1.5時間)	15名程度	
石丸	2回／月 第2・4土曜	健康体操、懇話会 (1時間)	15名程度	
波多方	2回／月 第2・4火曜	健康・ラジオ体操 (1時間)	9名程度	研修旅行(年1回)
下波多方	2回／月 第2・4土曜	健康体操、懇話会 (2時間)	15名程度	芝居見学(年1回)
白木原	1回／月 毎月10日	健康体操、懇話会 (2時間)	20名程度	食事会(年1回)
北俣水	2回／月 第2・4金曜	健康体操、懇話会 (1時間)	10名程度	食事会(年1回)
西俣水	2回／月 第2・4土曜	健康体操、懇話会 (1時間)	23名程度	
東俣水	1回／週 毎週土曜	健康体操、懇話会 (1.5時間)	15名程度	研修旅行(年1回) 花壇の清掃(年3回)
南俣水	1回／月 第4金曜	健康体操、懇話会 (2時間)	15名程度	食事会(年2回)
釜口	2回／月 第2・4金曜	健康体操、懇話会 (1.5時間)	15名程度	研修旅行(年1回) 花壇の清掃(年3回) 空き缶拾い(年2回)

## 1-2 保健・医療体制の充実

### ➤ 健診体制の充実

**目標** 平成 29 年度 出張診療・出張健康相談 開始（月 1 回）

現在、大田地域には 1 医療機関のみで、小児科等の受診の場合は旧杵築、山香地域まで行く必要があります。高齢者等、自動車の運転ができない場合は病院を受診することも大変な状況です。

そこで、地域住民の健康維持を目的に、高齢者や子育て世代が気軽に健康相談をできるよう、月に 1 回程度、出張診療・出張健康相談を実施します。

## 1-3 消防・防災対策の充実

### ➤ 自主防災組織の設置

**目標** 自主防災組織設置 地区数  
平成 30 年 3 月 31 日 14 地区

自主防災組織とは「自分たちのまちは自分で守る」という、住民が連携を取り、互いの身を守るための防災活動を行う組織です。災害は、いつ発生するか分からず、災害の規模によっては、公共機関による支援、救出、救護が期待できないことがあります。このような事態が発生した場合、地域内で災害時の要支援者となる高齢者、障害のある方、介助の必要な方に救助の手を差し伸べることが出来るのは、身近にいる地域住民です。

自主防災組織の活動は、地域内の危険箇所等の防災上の問題を地区住民で協議し、改善していくことや、災害発生時における情報伝達や避難、初期消火、炊き出し等、また、これらを迅速かつ的確に行うための訓練等です。

なお、これらの活動は、地域コミュニケーションが図られる場とも位置づけられます。

現在、大田地域においては、自主防災組織が結成されている行政区が 14 行政区のうち 4 行政区のみに留まっていることから、大田全地域での自主防災組織の設立を目指し、地域の支え合いの仕組みを創出します。

## ➤ 消防団活動の充実

**目標** 消防団員数 平成 31 年 4 月 定員 122 名維持

消防団は「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、消火・防災活動はもとより、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わず、その地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。

本地域は杵築市消防団大田方面隊として 3 分団 9 部定員 122 名で構成されていますが、過疎高齢化や社会環境の変化に伴い、団員数の減少に歯止めが掛からない状況に直面しているところであります（平成 28 年現在 106 名）。

地域住民の安心・安全を図るうえでは、消防団機能は重要なものとなることから、地域の若者や退団した O B 等にも勧誘を行い、組織の維持に努めます。

### 1-4 交通安全対策の推進

## ➤ 交通安全意識の向上

**目標** 交通死亡事故ゼロ 5,000 日達成（平成 39 年 7 月 10 日）

交通死亡事故をなくし、安心・安全に暮らせるよう、多くの人たちの協力によって、全国的に交通安全運動を展開しています。平成 27 年交通安全白書によると、平成 26 年中の交通事故死者数は 4,113 人で、平成 13 年から 14 年連続して減少していましたが、平成 27 年中の交通事故死者数は 4,117 人と 15 年ぶりの増加となっています。また、高齢者の死者数は、高齢者人口の増加等に伴い、全体に占める割合は年々増加しています。

本地域では平成 15 年 3 月 1 日の交通死亡事故ゼロ 7,000 日達成に伴い、村民交通安全大会を開催し、今後も、この記録を更新し、交通事故のない安心・安全な村づくりに邁進することを誓いました。しかしながらこの記録は平成 18 年 8 月 28 日、不運な事故によって、交通死亡事故ゼロ 8,276 日で途切れてしまいました。

道路交通網の整備により交通量は多くなり、交通事故発生の危険性が増加しました。交通安全活動の実施は、地域住民の安全な暮らしにつながります。したがって、引き続き、交通安全協会、地域や学校、職場と連携をとりながら、交通安全の啓発や街頭指導を行い、交通死亡事故ゼロ 5,000 日の達成を目指します（平成 28 年 9 月 29 日時点 1083 日達成）。

## 1-5 防犯体制の確立

### ➤ 防犯意識の高揚

**目標** 防犯講習会の開催 毎年1回開催

犯罪の被害に遭わずに安心して暮らせる社会は、多くの地域住民の願いであり、生活の基盤となるものです。全国の犯罪件数は最近の数年間では減少傾向にありますが、身近な犯罪への不安感は依然として高い状況です。これは少子高齢化社会の進行やコミュニティ意識の希薄化、空き家の発生等、犯罪の起りやすい状況が増加していることが、ひとつの要因となっています。

本地域では単身や夫婦のみで暮らしている高齢者の割合が高く、近年巧妙化している振込詐欺や訪問詐欺等による被害に遭う可能性が低いとは言えません。

地域が抱える課題は防犯だけでなく、交通安全や防災、景観、地域活性化、コミュニティづくり等様々ですが、地域の方々にとって住みやすく魅力的な地域にすることが、結果として犯罪や不安をなくし、安心して暮らせることにつながります。

防犯体制を確立するためには、地域の団体、行政や警察、学校等が連携し活動を進めて行くことが重要になります。そのため、防犯パトロールや高齢者世帯に対する鍵かけ運動、防犯講習会等を行い防犯意識の高揚に努めていきます。



## 2. 感性豊かで活力を生む村づくり

### 2-1 定住促進策の充実

#### ➤ 行政による定住者への支援

**目標** 大田地域を杵築市の「定住促進モデル特区」に指定  
平成 29 年度以降 毎年 5 世帯以上定住

大田地域では、少子高齢化が進み、将来的に人口が大幅に減少することが予測されています。地域の維持、活性化のためにも、人口減少を食い止めることは急務の事項といえます。地域内にはスーパーや大型病院がなく、利便性が悪いものの、周辺の商業地域までは 20 分程度とアクセスは比較的容易といえます。また、都市部にはない豊かな自然と静かな住環境が存在し、自然に囲まれた子育てや老後の生きがいのある充実した生活を送ることができます。

人口減少を防ぎ、UJI ターン等の新たな定住者を増やすために、大田地域を杵築市の「定住促進モデル特区」に指定し、定住者に便宜を図ります。具体的には、小学生以下の子供をもつ家庭への家賃補助、大田地域内の市営住宅を市外へ PR、結婚・出産・移住祝い金の支給等の施策を実施します。また、電気自動車の充電施設を整備し、豊かな自然環境と共に環境に配慮した地域づくりの推進を PR します。

#### ➤ 体験宿泊・就労体験の整備

**目標** 平成 29 年度 体験宿泊施設の候補となる空き屋（1 棟）を決定  
平成 30 年度 体験宿泊施設完成・就労体験開始

中山間地域では、近年、田舎暮らしを希望する都市部の住民が移住する I ターン等の事例が増えています。移住にあたって、移住前にそこでの生活を短期、長期に体験し、仕事探しをするために、体験宿泊施設や就労体験の実施が求められています。

大田地域でも移住者を増やすため、現在空き屋となっている住宅を活用し、大田地域での生活を 1 週間～1 ヶ月間に亘って体験できる施設を整備するとともに、大田地域内での仕事（農業や林業等）が体験できるよう、農業生産組織等と協力・提携し、体験メニューを用意します。

## 2-2 婚活事業の推進

**目標** 婚活事業  
平成 29 年 4 月以降 毎年 1 回開催

大田地域の出生数はここ数年、年間わずか 1~2 人程度で推移しており、少子化が進行しつつあります。一方で、少子化の原因である未婚化、晩婚化も進み、大田地域内でも独身男女が見受けられます。

そこで、大田地域で新しい家族が増えるよう、地域内外に住む男女の出会いの場を提供します。自然豊かな本地域では、体験型や自然型の婚活事業を地域住民が主体となって企画し、地域ぐるみで応援していきます。

## 2-3 集客・観光の振興

### ➤ 観光ルートの開発と情報発信

**目標** 平成 29 年度 大田地域の観光ルート開発  
観光ボランティアガイドの育成  
グリーンツーリズムの推進

大田地域には豊かな自然環境、歴史的文化遺産が存在します。しかしながら、現在利用されているのは横岳自然公園等わずかであり、十分に活用されていない状況です。

このため、大田地域の資源を活かした観光客の誘致に向けて、トレッキングや歴史遺産巡り等の観光ルートを開発するとともに、景勝地や歴史遺産を案内できるボランティアガイドを育成します。また、観光客が宿泊できる施設として、上記観光ルートのほか、地域内の主要産業である農業を体験し、とれたての野菜を食べる、地域の人々との交流を行う等の田舎生活を体験できるグリーンツーリズムを推進します。

これらの取り組みは、インターネットや SNS 等の情報ツールを用いて、効果的に情報発信するとともに、情報発信力のある著名人に、大田地域で自然を活かしたイベント（ヨガ・トレッキング等）を開催してもらい、全国的な PR につなげます。

## 2-4 雇用対策の充実

### ➤ 女性雇用の場の創出

**目標** 平成 30 年まで 大田地域の女性が働きやすい環境づくり

大田地域では、農家以外の方は、周辺の都市部へ 20 分以上かけて働きに出ている人が多い状況です。共働きが一般的となった現在、子育て世帯においては、小さな子供のいる親、特に女性が地域外へ働きに出ることが難しく、地域内で働くことの出来る環境が望まれています。

将来的に、大田地域内で大規模な企業等による雇用機会の増大を見込むことは難しい状況ですが、子育て世代の U・I ターン等、定住を促進するために、子育て中の女性が近距離通勤で働くことができる等、子育てしながら働きやすい環境づくりを目指します。

### ➤ 高齢者の雇用機会の拡大

**目標** 大田地域内の人材派遣システム「大田かっせよ会」設立  
平成 30 年 3 月 31 日 雇用登録者数 50 人

大田地域の高齢化率は現在 51.8%（平成 27 年 3 月 31 日）で、独居世帯や 65 歳以上夫婦のみ世帯が全世帯の 6 割を占めています。高齢者の多くは年金により生計を立てていますが、杵築市内の高齢者の 3 割は年間 80 万円以下の年金受給者となっています。

地域で生活していくためには、地域の行事・冠婚葬祭等に係る経費が必要となりますが、所得の少ない高齢者の中には、これらに生活費を切り詰めて参加する方や、地域のつきあいが出来ず、行政区から脱退せざるを得ない方も見受けられます。

一方で、地域内では、高齢者でも可能な短時間労働（家事、施設での清掃や洗濯、子供の見守り、農作業、話し相手等）の必要な分野もあります。このようなことから、地域の需要と高齢者の供給をマッチングさせる組織「大田かっせよ会」（仮称）を設立し、高齢者の雇用を確保するとともに、人と人の交流や孤食の防止により生きがいのある生活の実現と、一定の収入を得ることで、高齢者を含む地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができます。

### 3. 豊かな自然と文化を大切に作る村づくり

#### 3-1 横岳蝶パーク構想

**目標** 平成28年度 アサギマダラ観察会の実施  
(大田小学校児童・こども園園児対象)  
「横岳にアサギマダラを呼ぶ会」の活動を全面的に支援・協力

横岳自然公園は、大田地区の中央に位置する横岳の周辺に広がる自然豊かな高原です。ここには日本で唯一の旅する蝶である「アサギマダラ」の飛来が確認されています。そこで、もっと多くのアサギマダラを呼びたいという要望に賛同した方々により「横岳にアサギマダラを呼ぶ会」が設立(2012年12月)され、環境整備に取り組んでいます。現在、同会によって、アサギマダラが特に好む吸蜜花であるフジバカマの植栽、幼虫の食草で横岳に自生しているキジョランの保護が行われています。今後は、アサギマダラだけでなく、もっと多くの蝶たちが飛翔する自然豊かな公園として、「横岳蝶パーク」構想の実現を「横岳にアサギマダラを呼ぶ会」と共同で行い、観賞客増を目指します。

また、近年、自然との関わりが乏しくなってきた子どもたちにとって、横岳蝶パークの存在はこのような状況を打開するための一つの策になると考えられます。そこで、飛翔する蝶を追いかける子どもたちが、生命の神秘さや命の大切さを学ぶきっかけを掴んでくれることを期待します。

#### 3-2 歴史的文化遺産の保存と活用

##### ➤ ふるさと大田の再発見

**目標** 平成28年度 「もっと知ろう大田探検隊」の結成 参加児童5・6年生  
→平成30年3月31日 全校児童が参加 「大田検定」の実施

大田地域は、緑豊かな自然に囲まれ、先人たちが築き上げた歴史やすばらしい文化がたくさんあります。しかしながら、子どもたちを取り巻く環境も多様化し、子ども同士が集まって遊ぶ姿を見ることが少なく、自然と触れ合う、自然や文化を感じる機会が減り、自分たちが住んでいる地域の魅力(良さ)である自然の中での遊び体験を経験することなく大人へと巣立っていくことが、危惧されます。将来、大田地域を誇りに思えるような人材育成にとって、これらの体験は重要です。

こうしたことから、小学生を中心に「もっと知ろう大田探検隊」を結成し、歴史学習や自然散策等で、大田の良さを再認識できる事業・授業を展開します。また、ふるさと大田を誇りに思う意識の高揚を図るために、大田に関する知識を計る「大田検定」を実施します。

## ➤ 伝統的祭事の継承

**目標** 平成 28 年度 祭事継承へ向けた課題の抽出・整理  
→平成 30 年度 継承・保存システムの構築

大田地域では各行政区で伝統的な地域の祭事が行われていましたが、少子高齢化、人口の減少等の時代の流れにより、地域の祭事の簡素化や廃止を余儀なくされている状況にあります。

こうしたことから、地域の祭事については、その地区住民のみならず、隣接する地区等、大田地域内で協力し合いながら、先代から継承した伝統文化を保存します。

## 4. ひとが育ち、輝く村づくり

### 4-1 子育て支援の充実

#### ➤ 地域における子育ての支援

**目標** 平成 28 年度 大田地域に「子育てサロン」1 箇所設置

都市部では保育施設が不足し、待機児童数の増加が社会問題になっていますが、大田地域には「子ども園」があり、夫婦共働きでも子育てができる環境が整っています。しかし、こども園と関わりなく子育てをしている家庭のことを考えると、「子育ての孤立化」という問題があります。同じ集落に同じ世代の子どもがいることは稀な状況で、子ども同士で遊んだり、親同士で子育ての悩み等を相談する機会はほぼ無いものと思われます。

そこで、子育てに不安を感じている時に、相談したり、手助けをしてもらえたりできる環境をつくるために、「子育てサロン」を設置します。「子育てサロン」は乳幼児と母親・父親達が集い、交流し、悩み相談や助け合いができる場所となります。また、対象は大田地域に留まらず、市内全域とします。

### 4-2 幼児・学校教育の充実

#### ➤ 地域の良さを学べる機会づくり

**目標** 平成 28 年度 児童が安全に徒歩通学できる環境、体制の整備、実施

平成 27 年度全国学力テストの結果において、大田小学校の児童は各学年とも、全体的には正答率が高い中、理科の教科における「身のまわりにある自然現象・事象」に関する正答率だけが平均より低いという特徴がありました。また、体力テストの結果では、持久力や柔軟性、腹筋力等が平均よりも劣っていることが分かりました。

原因の一つとして考えられるのが「バス通学」です。大田地域では平成 26 年度の小学校統合以来、ほぼ全ての児童がバスで通学しています。これは、小学校統合時の一つの条件として市にお願いし実現したのですが、大人達が準備した「バス通学制度」が子どもにどのような影響を及ぼすのかを考え直す必要があるといえます。「バス通学」によって、体力の低下、身近な自然に触れ合う機会が減ったことが明らかとなり、さらに、徒歩通学時には日常的であった地域の方々とのコミュニケーションの機会も残念ながら奪っている事実もあります。

そこで、地域の自然や人々と触れ合う機会を増やし、かつ、健康でたくましい大田っ子に育ってほしいという願いから「徒歩通学の推進」を図ります。

## ➤ 子供の教育環境の整備

**目標** 平成30年度 学校跡地を公園、グラウンドゴルフ場として整備・活用

大田地域では公園等の屋外で自由に遊べる場所が少なく、子供から高齢者、子育て世代でのんびり過ごしたり、運動できるような環境がありません。

そこで、旧小学校のグラウンド跡地を公園として整備し、活用します。また、併設してグラウンドゴルフ場を作り、子供から高齢者まで一緒にできるスポーツを推進します。

### 4-3 社会教育の充実と生涯学習の村づくり

**目標** 平成29年度 シルバーリーダーによる「学びの場」開設

大田地域の子どもたちは、スクールバスでの通学が主体となっており、地域（近所）の子どもや大人とコミュニケーションをとる機会が少なく、特にこども園や学校と関わりのない高齢者等は、子どものことを知らない状況です。

こうしたことから、子どもたちの人間関係力の向上および高齢者の生きがい作りのため、人生の生き字引的存在である高齢者を「シルバーリーダー」として人材登録し、講師として自然の恵みや自然相手の知恵等を与える「学びの場」を開設し、高齢者と子どもたちの世代間交流を進めていきます。

## 5. 利便性の高い村づくり

### 目標

平成 28 年度 現況の公共交通システムの課題を抽出

→平成 29 年度 新たな公共交通システムの構築

大田地域における公共交通は、現在、杵築市内を巡回するコースと大田地域内をまわるコースで運行されるコミュニティバスがあり、主に自動車を運転できない高齢者等の買い物や通院の足として利用されています。以前のアンケート調査では、高齢者の大半が移動手段に困っていないとの意見が多かったものの、今後さらに高齢者が増えると予想されることから、高齢者が安心して地域内を移動できる交通手段を確保する必要があります。

このため、現在の大田地域内のコミュニティバスのコースや運行時間を見直します。また、必要なときに利用できるようなシステムを構築します。例えば社協が実施しているデイサービスのマイクロバスの空き時間を借りて送迎を行うことや、杵築・山香のタクシー業者と協力し地域内に常駐のタクシーを置いてもらう等を検討します。



## 6. 若者の活躍できる村づくり

**目標** 若者主導のイベント 将来の大田を考える「夜なべ談義」開催  
平成 29 年度以降 毎年 1～2 回開催

現在、大田地域在住または出身の 20～40 代の若者が大田地域内で力を発揮できる場がありません。将来の大田地域を担う若者に、地域づくりに積極的に関与してもらうため、若者主導で将来の大田の姿を考える「夜なべ談義」を開催します。

**目標** 平成 28 年度 「成人を祝う会」実行委員会設立  
平成 29 年 8 月 「成人を祝う会」実施

これからの地域を考える際に、若者の声を聞き、その力を借りることは必要不可欠といえます。しかし、大田地域における若者は、年齢構成において圧倒的少数派であるためか、年々萎縮傾向にあるように感じられます。そんな若者の力を引き出していくために、まずは地域の人と触れ合うきっかけを作る必要があります。

そこで、若い男女を集め、声を聞くことができる手段として「成人を祝う会」を企画します。二十歳という人生の節目の年に当協議会のメンバーと交流、並びに意見交換を行う機会を設けることで地域の絆、温もりを感じてもらいたいと思います。そして、若者から聞いた声を地域に反映していきます。

## 7. 地域情報の発信

**目標** 平成 29 年度 情報発信システム・組織の構築  
大田地域のホームページ立ち上げ・地域情報紙の発行開始（年 2 回）

大田地域では、現在まとまった情報を発信するツール（ホームページ等）は活用されておらず、都市部で生活している地域出身者や移住希望者、観光客等の杵築市外の住民に対して、情報提供がなされていない状況です。今後、UJI ターン者、観光客の増加に向けてきめ細かい情報を公開する必要があります。

このため、大田地域内の情報を収集し、公開するシステム及び組織を構築し、地域の魅力を発信する大田地域独自のホームページを立ち上げます。また、ホームページを見ることができない方に向けては、年 2 回の地域の情報紙を配布します。